中部地区公民館だより

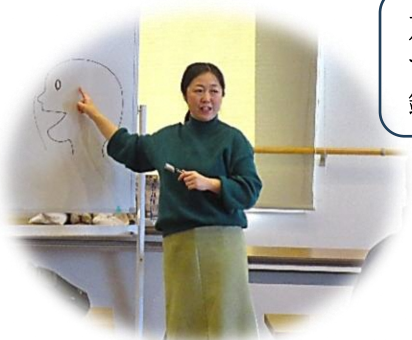
第168号
令和７年１月３１日発行
上山市中部地区公民館
上山市十日町４番１１号
TEL　６７３－２５８８
FAX　６７３－０３７９

元気な歌声と笑顔あふれる学習会

1月17日（金）、公民館多目的ホールで、はこべの会「歌の教室」を開催しました。音楽教室“とおんまーれ“の鈴木友恵さんにご指導いただき、童謡や歌謡曲などを歌いました。曲目は鈴木先生に選曲していただき、「日本で愛される世界の民謡と各年代の名曲をみんなで歌いましょう」をテーマに、10曲を楽しく歌いました。

歌う前に、冬の寒さで硬くなった身体をほぐすために手足を動かし、頭を使った体操で脳の動きを活発にし、鼻歌風の歌い方から慣らして発声の練習をしました。先生からは、「せっかくの機会なので、ただ歌うだけではなく、頭蓋骨の振動を感じながら、顔を目と鼻のブースと口のブースに分けているイメージで歌ってみましょう」と課題が出されました。

歌う前に手足を動かし、寒さで硬くなった身体をほぐしました



声の伝わり方について説明中の鈴木友恵先生

「さあ歌ってみましょう！」と先生の掛け声で始まった世界の民謡では、ドイツ民謡、フランス民謡、アメリカ民謡、イギリス民謡を歌い、世界を巡りました。ロンドン橋（イギリス民謡）では手遊びを交えながら歌い、他の人と違う動きや反対の動きになるたびに笑いが起きました。「簡単そうで、一度に二つのことをやるのは難しいね」と苦笑いする姿もみうけられました。

年代別歌謡曲では、60年代から90年代までのヒット曲をそれぞれ1曲ずつ歌い、「懐かしいね。何回歌っても良い曲だな」と昔に帰って楽しいひと時を過ごしました。

雪が降る中、大勢の会員の参加があり、皆さん本当に楽しみにしている学習会なのだと再確認しました。大きな声を出すのは健康維持につながるので今後も継続していきたいと思います。

出前スポーツ教室 ①　足腰元気体操

　12月20日（金）、多目的ホールにて出前スポーツ教室『足腰元気体操』を開催しました。

　最初は椅子に座った状態で、手をグーとパーの動作を用いて取り組める体操をしました。「正確にできなくても、考える事が大事なので気楽にやってください」と声をかけていただき軽い気持ちでやることができました。

かみのやまスポーツクラブ
山川さん

出前スポーツ教室 ②　モルック

　1月10日（金）、多目的ホールにて出前スポーツ教室『モルック』を開催しました。

　はじめての人も経験者も真剣な眼差しで一投一投を投げていました。

　外は雪が降っていてとても寒かったのですが、寒さを忘れるくらい多目的ホールは歓声と熱気で賑やかでした。

はこべの会　サロン

新春初釜茶話会 ＆ビンゴゲーム

　1月15日（水）、はこべの会『1月サロン』が行われました。

　はこべの会 会員の方がお友達と一緒に、新春を祝って日本舞踊を披露してくれました。

　今年も笑顔いっぱいの年でありますように・・・

参加者募集

ケーキづくり教室

日　　時	2月15日（土） 午後1時30分から
場　　所	中部地区公民館 調理室
講　　師	果樹工房 YOSHIDA 吉田安俊さん
対　　象	中部地区在住の家族（個人でもOKです） 上山小学校の児童と家族
募集人数	8組程度（定員になり次第締切ります）
材 料 代	1,000円
申込締切	2月12日（水）
持 ち 物	エプロン・三角巾、マスク着用

ケーキづくり教室の
申込受付は 2/4(火)
午前9時からになります

出前スポーツ教室③ カローリング

日　　時	2月18日（火） 午前10時から
場　　所	中部地区公民館 多目的ホール
講　　師	かみのやまスポーツクラブ
対　　象	中部地区在住の方
募集人数	18名程度
参 加 費	無料
申込締切	2月14日（金）
持 ち 物	屋内シューズ、必要な方は飲み物

正月飾りを置いていただきました

中部地区管内の公民館利用者の方から「公民館に飾ってください」と置いていただきました。

公民館の受付カウンターと下足箱の上に飾ってあります。

お近くにお越しの際はどうぞ公民館に寄ってご覧ください。

2月の予定

12(水)　はこべの会 サロン
15(土)　ケーキづくり教室
18(火)　出前スポーツ教室③カローリング
19(水)　はこべの会 閉級式
27(木)　消防訓練（職員のみ）

2月の百歳体操

6、13、20、27

はこべの会 サロン

はこべの会閉級式の後 お雛祭りで茶話会

日時	2月19日（水） 閉級式 午前10時から サロン　正午から
場所	中部地区公民館
内容	はこべの会閉級式後に会場を移して茶話会をします。
会費	300円

地域の宝再発見　NO.１００

藤井松平氏シリーズ４．「松平信亨侯（補遺）」（４）信亨（のぶつら）侯の思いと時代

高仙寺への参詣と永護之宮を創建

さて上山藩史には公けにされていない事件があり、郷土史では上山だけの視野では分からないことに出くわします。ここでは学芸・信仰、時代背景も紐解き、領主に肩入れし少し遠回りして上山の謎を幾様にか深掘りしていきたいと思います。

さまざま問題を孕（はら）んでいた上山領主松平信亨侯代、古記録には「御領主信亨公の御帰依によって御先祖信一公の御霊牌を仙石高仙寺に安置し奉りて毎年正月十六日には御家老御代参あり、公在国の時には御仏参りもあり」（⑱）とあります。この御霊牌安置、家老代参、領主侯の仏参とは何を示しているのでしょう。

江戸初期の土岐侯は上山入部にあたり菩提寺と祈祷寺社を招来創建しました。松平侯代々は宮脇八幡神社、真言宗広福寺・観音寺、天台宗清光院に祈祷を命じていますが、この度は初めて領主侯の特定高仙寺（真言宗）への参詣です。松平家は浄光寺（浄土宗）が上山菩提所、江戸高輪松光寺には歴代当主牌が祀られています。〝松光寺〟は藤井松平四代忠国公と正室の法名「長昌院」「松光院」にちなみ「松平に光あれ、いつまでも見守ってくださるように」との願いで寺名を「長昌院松光寺」に改名（1688 年）しました（松光寺二十世世芝眞影住職談）。

信亨侯は、仙石高仙寺で大般若護摩を命じ（＊現在は７月大般若祈祷祭）、天明四（1784）年四月には寺内熊野神社に「永護之宮」を創建（②、⑲）し、米二俵を供えて毎年三月十一日に大般若護摩、祭礼を執り行うようになりました。

穿（うが）った見方になるかも知れませんが、藤井松平家四代忠国、五代信之侯の播州明石、下総古河藩時代に新田開発で藩領高をあげていましたが、五代信久時代の寛文九（1669）年に幕府に批判的な熊沢蕃山を預けられ、古河転封時にも帯同し開発を行いました。信亨侯同時代のことですが、倹約を主導した松平定信（白河藩主、老中で寛政の改革 1787～1793）と面識あるもそりが合わず嫌いました。信亨侯が倹約を嫌う根底には学芸と殖産を両立させた明石、古河での先祖を慕う気持ちがありました。

ここが問題なのですが、三代将軍家光の四男五代綱吉（1680 年～1709 在）は、兄の四代将軍家綱（1651～1680 在）亡き後に将軍職を継ぎましたが、綱吉は兄家綱の補佐役（スペア）、養嗣子で反発心があり、又商業隆盛、商人文化が花開く時代で、武家政権は財政的にも困窮する「元禄の世」（1688～1704 年）となります。幕府は体制維持のためにバックボーンとして御用儒学、朱子学を奨励しました。世は元禄文化として華やぐ一方、年貢（税収）低下などにより財政は窮迫する時代でした。殖産か、風気取り締まりかという施策の潮目に将軍交代が重なり、預けられた熊沢蕃山庇護の藤井松平家を排斥する背景がありました。江戸政権百年目の赤穂事件 元禄十五(1702）年もあって全国諸藩を引き締めたという時代背景です。

藤井松平嫡流五代信之は幕府老中になりながら、息子の六代忠之は〝狂疾〟理由に改易となり、減封されて家督を継いだ弟の七代信通が上山に着封することになります。この将軍綱吉時代に信通侯が、土岐（転封時城剥ぎ）、金森のあと上山に移封されたことに注目せざるを得ません。

上山四代（藤井松平十代）信亨侯には、隆盛した先祖の代を偲びつつ倹約主導の老中松平定信に反発、上山初代信通侯の兄忠之侯が幕府から受けた仕打ちを許せず、倹約主張の諫言家臣を許せなかったというジレンマに苛まれていたのではないか（推察です）。

改めてになりますが、幕政に批判的な熊沢蕃山を預かっていた忠之侯は、江戸上屋敷に幕府から使者を派遣されてその夜狂疾に襲われ髪を落とします（①）。前述松光寺の與芝眞彰師は、幕府圧力陰謀説を説きます。藤井松平家は先祖が培ってきた家風を踏まえた（その反発の）深掘りです。

遠い回り道をしました。「永護宮」は藤井松平の先代諸侯の功績をもつ諸霊を尊ぶ祠堂でした。これが幕府陰謀説によってたつ解釈です。

※参考文献：『上山市史』、『藤井松平御傳記』①、『上山年代略記』②、『上山郷土史』⑫、『上山見聞随筆』⑱⑲、『藩内訌事件』㉕、『大坂加番資料』㉛、『郷土史物語』『上山繁昌記』（梅津吉造著）など。

水岸山観音寺　住職　　鎌上　宏